

9) - 5 ラクイラ地震により被害を受けた文化遺産建築の修復・補強に関する国際学術共同研究

研究期間 (H22)

〔担当者〕 濱崎 仁

本課題においては、2009 年 4 月に発生したラクイラ地震により被害を受けた文化遺産建築の保存・修復方法を検討するために、現地の大学・関係機関等と連携して劣化度調査、モニタリング調査等を行うことを目的としている。現地調査では、先に設置した Sant' Agostino 教会堂、San Silvestro 教会堂、ラクイラ市庁舎鐘楼 (Torre Civica) における、静的な変形等に関するデータ、動的な振動性状に関するモニタリングデータの吸い上げ、センサの追加設置等を行った。このデータを基に、イタリア文化財保存局、パドヴァ大学の研究者等と打合せを行い、8月に発生した M3.4 と M3.6 の余震による影響やこれまでに実施されている補強効果に関する評価やデータの遠隔処理方法、今後の継続的なモニタリング計画等について検討を行った。これらの結果、モニタリングが順調に実施できていること、塔の変形防止等の補強が一定の効果が得られていることなどが確認できた。